

2021年 8月 15日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教「敗れの中からの祈り」詩編 44編 高橋彰

44 【指揮者によって。コラの子の詩。マスキール。】

2 神よ、我らはこの耳で聞いています

先祖が我らに語り伝えたことを

先祖の時代、いにしえの日に

あなたが成し遂げられた御業を。

3 我らの先祖を植え付けるために

御手をもって国々の領土を取り上げ

その枝が伸びるために

国々の民を災いに落としたのはあなたでした。

4 先祖が自分の剣によって領土を取ったのでも

自分の腕の力によって勝利を得たのでもなく

あなたの右の御手、あなたの御腕

あなたの御顔の光によるものでした。

これがあなたのお望みでした。

5 神よ、あなたこそわたしの王。

ヤコブが勝利を得るように定めてください。

6 あなたに頼って敵を攻め

我らに立ち向かう者を

御名に頼って踏みにじらせてください。

7 わたしが依り頼むのは自分の弓ではありません。

自分の剣によって勝利を得ようともしていません。

8 我らを敵に勝たせ

我らを憎む者を恥に落とすのは、あなたです。

9 我らは絶えることなく神を賛美し

どこしえに、御名に感謝をささげます。[セラ

10 しかし、あなたは我らを見放されました。

我らを辱めに遭わせ、もはや共に出陣なさらず

11 我らが敵から敗走するままになさったので

我らを憎む者は略奪をほしいままにしたのです。

12 あなたは我らを食い尽くされる羊として

国々の中に散らされました。

13 御自分の民を、僅かの値で売り渡し

その価値を高くしようともなさいませんでした。

14 我らを隣の国々の嘲り的とし

周囲の民が嘲笑い、そしてにまかせ

15 我らを国々の嘲りの歌とし

多くの民が頭を振って侮るにまかせられました。

16 辱めは絶えることなくわたしの前にあり

わたしの顔は恥に覆われています。

17 嘲る声、ののしる声がします。報復しようとする敵がいます。

18 これらのことすべて、ふりかかっても

なお、我らは決してあなたを忘れることなく

あなたとの契約をむなしものとせず

19 我らの心はあなたを裏切らず

あなたの道をそれで歩もうとはしませんでした。

20 あなたはそれでも我らを打ちのめし

山犬の住みかに捨て

死の陰で覆つてしまわれました。

21 このような我らが、我らの神の御名を忘れ去り

異教の神に向かって

手を広げるようなことがあれば

22 神はなお、それを探し出されます。

心に隠していることを神は必ず知られます。

23 我らはあなたゆえに、絶えることなく

殺される者となり

屠るための羊と見なされています。

24 主よ、奮い立ってください。

なぜ、眠っておられるのですか。

永久に我らを突き放しておくことなく

目覚めてください。

25 なぜ、御顔を隠しておられるのですか。

我らが貧しく、虐げられていることを

忘れてしまわれたのですか。

26 我らの魂は塵に伏し

腹は地に着いたままです。

27 立ち上がって、我らをお助けください。

我らを贖い、あなたの慈しみを表してください。

聖書 新共同訳(C)日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

この詩は個人と言うより共同体の嘆きと祈りの死です。神の民イスラエルは、自分たちの敗れの経験の中から神との出会い直しへと導かれていきました。敗戦、破壊、犠牲の経験から、戦いを導かれ、力によってご自身を頼す神、栄光の勝利の主というイメージは崩れ去り、暴力行使せず無力で身を引き渡す弱き神の姿が想起されることになりました。戦って力を発揮しないという仕方でこそ、神は民に最も語られたのです。

イスラエルの救いの歴史の回顧は、自分たちの腕の力によるのではなく神のみ手の業だとほめたたえられました。しかし、彼らが周辺の敵に対してイスラエルの民が望んだ破滅は逆に自分たちの身にふりかかりました。

それでもイスラエルの民は神を主と呼び続け、離れず、希望を捨て去ることにはなりませんでした。人の歴史は過ちを犯す。しかし神を信じ頼ることは尊い。だから信仰の告白をし、信頼を寄せ、現在の惨状と敵意の訴え、嘆願をします。「あなたゆえに…殺される者となり、屠るための羊となっている」。神が暴力ではなく、苦しみの側に共に身を置く神であるように、神の民も苦難を通して神と近くいることを確認し、神の慈しみを求めます。使徒パウロは、迫害にさらされていた初代教会の礼拝共同体に対して、その苦しみを主イエス・キリストの死と復活の光において理解するよう教えるために23節を引用しています。